

## 1. 需給見通し

農林水産省は、「砂糖及びでん粉の価格調整に関する法律」（昭和40年法律第109号）により、四半期ごとに砂糖および異性化糖の需給見通しを公表している。12月に「令和元砂糖年度における砂糖及び異性化糖の需給見通し（第2回）」を公表した。

### 令和元砂糖年度（10月～翌9月）の見通し

#### 【砂糖】

総消費量：188万8000トン（前回見通しから8000トン減）

総供給量：184万8000トン（同7000トン増）

#### 【加糖調製品】

消費量および供給量：51万7000トン（同9000トン減）

#### 【異性化糖】

消費量および供給量：83万2000トン（同2000トン減）

### （1）砂糖の消費量

令和元砂糖年度（10月～翌9月。以下同じ）の砂糖の消費量は、前回見通しから8000トン引き下げられ、188万8000トン（前年度比0.9%増）と見通している（表1）。内訳を見ると、近年の消費動向などを踏まえ、分みつ糖の消費量は185万トン（同0.8%増）、含みつ糖の消費量は3万8000トン（同5.5%増）と見通している。

### （2）砂糖の供給量

令和元砂糖年度の砂糖の供給量は、前回見通しから7000トン引き上げられ、184万8000トン（同2.7%減）と見通している。内訳を見ると、分みつ糖の供給量は182万6000トン（同2.9%減）、含みつ糖は2万2000トン（同10.0%増）と見通している。

国内産糖（分みつ糖）の供給量を見ると、てん菜糖については、てん菜の作付面積が前年産と比べ1.5%（約860ヘクタール）減少するものの、6月以降の好天と10月の気温上昇により例年以上に順調な生育となっていることから、産糖量は66万トン（前年度比7.3%増）、供給量は65万8000トン（精製糖換算（以下同じ）。同7.3%増）と見通している。甘しや糖については、サトウキビの収穫面積が前年産に比べ2.1%（約460ヘクタール）減少したことに加え、前作の収穫期の長雨に伴う植え付けや管理作業の遅れなどで春植え・株出し栽培において生育に若干の遅れが見られたものの、干ばつや台風被害が少なくおおむね順調な生育となったことから、産糖量は13万9000トン（前年度比10.6%増）、供給量は13万3000トン（同10.6%増）と見通している。

表1 令和元砂糖年度における砂糖の需給見通し

(単位：千トン)

		平成30砂糖年度 (実績)	令和元砂糖年度				合計	
			10月-12月 (実績見込み)	1月-3月 (見通し)	4月-6月 (見通し)	7月-9月 (見通し)		
消費量	分みつ糖	1,835	488.6	427.0	465.9	468.5	1,850	
	含みつ糖	36	7.0	13.5	10.5	7.4	38	
	合計	1,872	495.6	440.5	476.4	475.9	1,888	
供給量	国内産糖	分みつ糖	734	369.3	369.7	51.9	-	791
		含みつ糖	11	0.9	9.3	2.4	-	13
		小計	745	370.2	379.0	54.3	-	804
	輸入糖	分みつ糖	1,146	299.6	155.5	273.0	307.2	1,035
		含みつ糖	9	1.7	4.0	2.9	0.9	10
		小計	1,155	301.3	159.5	275.9	308.1	1,045
	合計	分みつ糖	1,880	668.9	525.2	324.9	307.2	1,826
		含みつ糖	20	2.6	13.3	5.3	0.9	22
		小計	1,900	671.5	538.5	330.2	308.1	1,848
期末在庫		332	479.1	577.1	430.9	263.1	263	

資料：農林水産省「令和元砂糖年度における砂糖及び異性化糖の需給見通し（第2回）」

注1：分みつ糖は精糖ベースの数量、含みつ糖は製品ベースの数量である。

注2：輸入糖の分みつ糖供給量は、機構売買数量である。

### (3) 加糖調製品の需給

令和元砂糖年度の加糖調製品の消費量は、近年の輸入動向などを踏まえ、51万7000トン（前年度

比0.4%減）と見通している（表2）。また、供給量は、消費量に見合った量が供給されると見通している。

表2 令和元砂糖年度における加糖調製品の需給見通し

(単位：千トン)

	平成30砂糖年度 (実績)	令和元砂糖年度				合計
		10月-12月 (実績見込み)	1月-3月 (見通し)	4月-6月 (見通し)	7月-9月 (見通し)	
消費量	519	153.1	112.6	123.3	127.9	517
供給量	519	153.1	112.6	123.3	127.9	517

資料：農林水産省「令和元砂糖年度における砂糖及び異性化糖の需給見通し（第2回）」

注1：改正糖価調整法（2018年施行）に基づき調整金の対象とされた加糖調製品を対象としている。

注2：消費量は対象となる加糖調製品の輸入量（財務省貿易統計より算出）を踏まえて見通しており、供給量は消費量に見合った量が供給されるものとして見通している。

注3：令和元砂糖年度の消費量は、平成30砂糖年度の輸入実績を踏まえて見通している。

### (4) 異性化糖の需給

令和元砂糖年度の異性化糖の消費量は、近年の消費動向などを踏まえ、83万2000トン（前年度比

1.0%増）と見通している（表3）。また、供給量は、消費量に見合った量が供給されると見通している。

表3 令和元砂糖年度における異性化糖の需給見通し

(単位：千トン)

	平成30砂糖年度 (実績)	令和元砂糖年度				合計
		10月-12月 (実績見込み)	1月-3月 (見通し)	4月-6月 (見通し)	7月-9月 (見通し)	
消費量	824	183.2	190.4	245.3	212.9	832
供給量	824	183.2	190.4	245.3	212.9	832

資料：農林水産省「令和元砂糖年度における砂糖及び異性化糖の需給見通し（第2回）」

注：標準異性化糖（果糖55%ものの固形ベース）に換算した数量である。

## 2. 輸入動向

### 【粗糖の輸入動向】

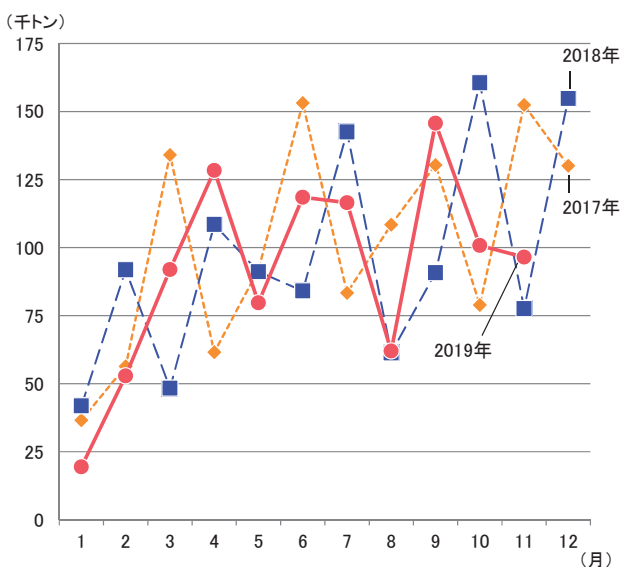
#### 11月の輸入量は前年同月から大幅に増加

財務省「貿易統計」によると、2019年11月の甘しや糖・分みつ糖（HSコード 1701.14-110）および甘しや糖・その他（同1701.14-200の豪州）の輸入量は、9万6521トン（前年同月比24.5%増、前月比4.2%減）であった（図1）。

輸入先国は豪州、タイおよび米国の3カ国で、国別の輸入量は次の通りであった（図2）。

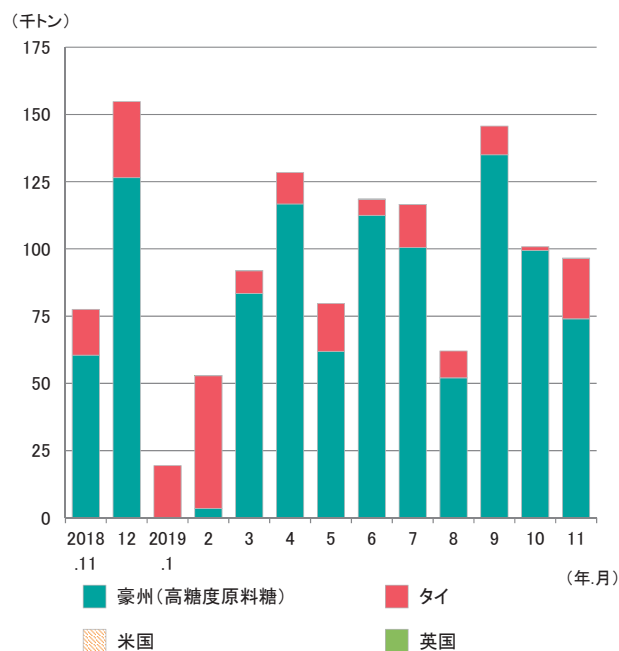
豪州	7万3987トン
	（前年同月比22.4%増、前月比25.6%減）
タイ	2万2515トン
	（同31.9%増、同16.8倍）
米国	19トン
	（前年同月および前月ともに輸入実績なし）

図1 粗糖の輸入量の推移



資料：財務省「貿易統計」  
注：HSコード1701.14-110、1701.14-200（豪州のみ）

図2 粗糖の国別輸入量の推移



資料：財務省「貿易統計」  
注：HSコード1701.14-110、1701.14-200（豪州のみ）

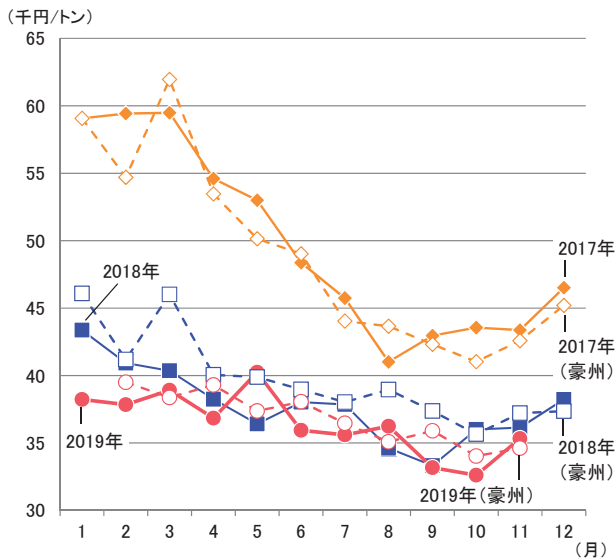
2019年11月の甘しや糖・分みつ糖の1トン当たりの輸入価格は、3万5335円（前年同月比2.2%安、前月比8.3%高）であった（図3）。

タイ 3万5278円  
（前年同月比2.4%安、前月比8.1%高）

米国 10万3105円  
（前年同月および前月ともに輸入実績なし）

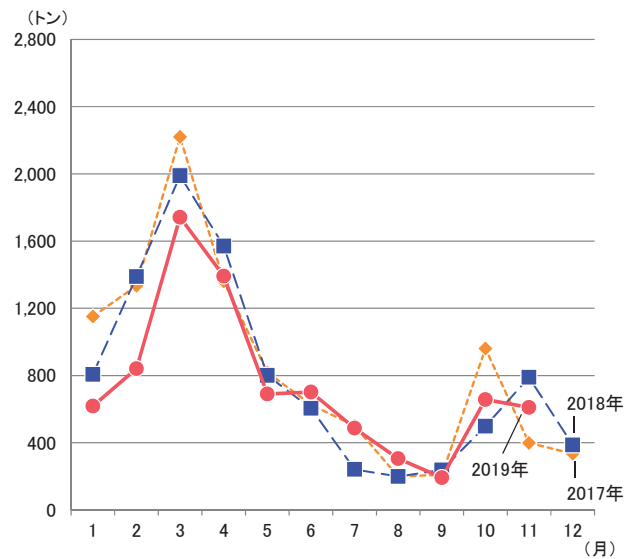
また、同月における甘しや糖・その他の豪州からの高糖度原料糖の1トン当たりの輸入価格は、3万4618円（前年同月比7.0%安、前月比1.7%高）であった。

図3 粗糖の輸入価格の推移



資料：財務省「貿易統計」  
 注1：実線はHSコード1701.14-110、点線は同1701.14-200（豪州のみ）。  
 注2：2019年1月は1701.14-200の豪州からの輸入実績なし。

図4 含みつ糖の輸入量の推移



資料：財務省「貿易統計」  
 注：HSコード1701.13-000、1701.14-190

## 【含みつ糖の輸入動向】

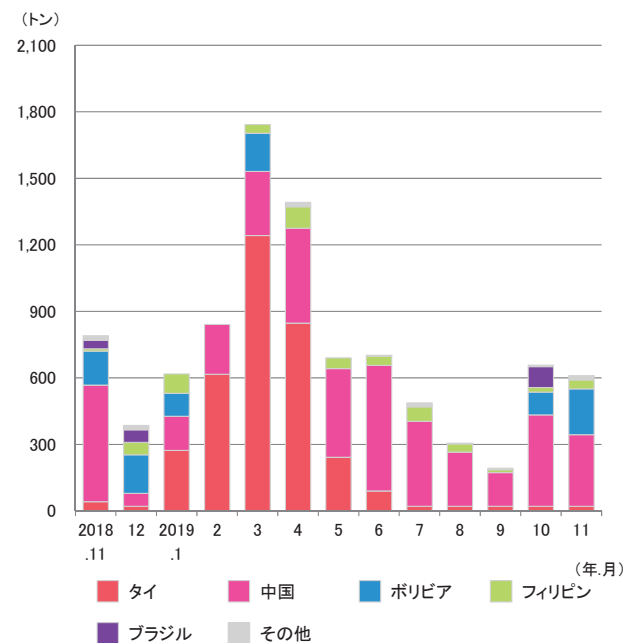
### 11月の輸入量は前年同月から大幅に減少

財務省「貿易統計」によると、2019年11月の含みつ糖（HSコード 1701.13-000、1701.14-190）の輸入量は、610トン（前年同月比22.8%減、前月比7.2%減）であった（図4）。

輸入先国は中国、ボリビア、フィリピン、タイ、コスタリカおよび台湾の6カ国で、国別の輸入量は次の通りであった（図5）。

中国	323トン
（前年同月比38.5%減、前月比21.6%減）	
ボリビア	206トン
（同33.8%増、同2.0倍）	
フィリピン	41トン
（同4.1倍、同95.2%増）	
タイ	21トン
（同50.0%減、前月同）	
コスタリカ	19トン
（同5.0%減、前月輸入実績なし）	
台湾	1トン未満
（前年同月および前月ともに不明）	

図5 含みつ糖の国別輸入量の推移



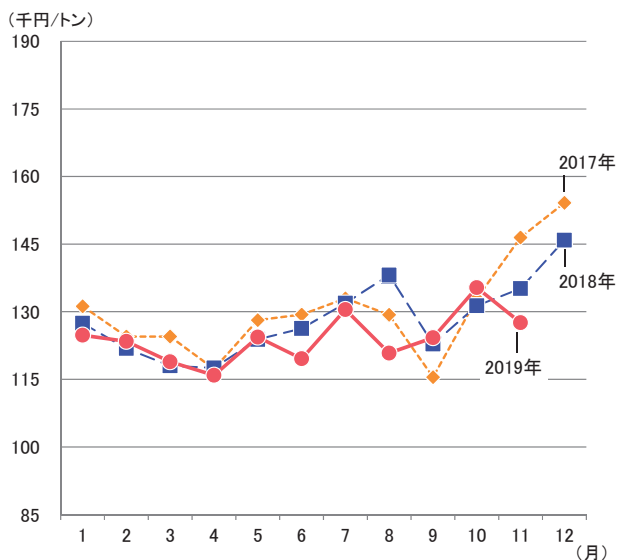
資料：財務省「貿易統計」  
 注：HSコード1701.13-000、1701.14-190

2019年11月の1トン当たりの輸入価格は、12万7569円（前年同月比5.6%安、前月比5.7%安）であった（図6）。

国別の1トン当たりの輸入価格は、次の通りであった。

中国	11万5892円
	(前年同月比9.5%安、前月比4.7%安)
ボリビア	12万9485円
	(同4.0%安、同0.6%高)
フィリピン	17万6683円
	(同31.8%安、同65.9%高)
タイ	9万2238円
	(同14.8%高、同1.0%高)
コスタリカ	20万1105円
	(同7.9%高、前月輸入実績なし)
台湾	不明
	(前年同月および前月ともに不明)

図6 含みつ糖の輸入価格の推移



資料：財務省「貿易統計」  
注：HSコード1701.13-000、1701.14-190

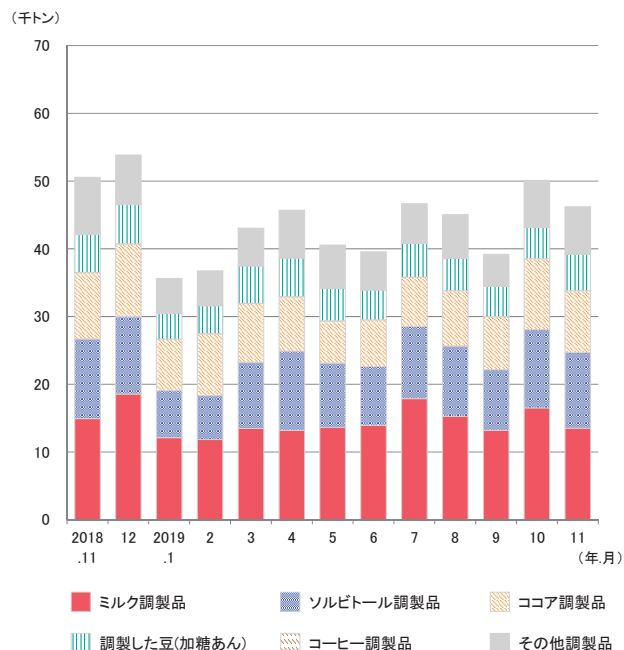
### 【加糖調製品の輸入動向】

#### 11月の加糖調製品の輸入量は前年同月からかなりの程度減少

財務省「貿易統計」によると、2019年11月の加糖調製品の輸入量は、4万6183トン（前年同月比8.7%減、前月比7.8%減）であった（図7）。

品目別の輸入量は、表4の通りであった。

図7 加糖調製品の品目別輸入数量の推移



資料：財務省「貿易統計」

注：各品目のHSコードは次の通り。

【2018年12月まで】

ココア調製品：1806.10-100、1806.20-111、1806.20-190、1806.32-211、1806.90-211

コーヒー調製品：2101.11-100、2101.12-110、2101.12-246

調製した豆（加糖あん）：2005.40-190、2005.51-190

ミルク調製品：1901.90-219、2106.90-283、2106.90-284

ソルビトール調製品：2106.90-510

その他調製品：2101.20-246、2106.10-219、2106.90-251、2106.90-281、2106.90-282、2106.90-590

【2019年1月から】

ココア調製品：1806.10-110、1806.10-190、1806.20-112、1806.20-113、1806.20-121、1806.20-129、1806.32-212、1806.32-213、1806.90-212、1806.90-213

コーヒー調製品：2101.11-110、2101.11-190、2101.12-111、2101.12-112、2101.12-246

調製した豆（加糖あん）：2005.40-191、2005.40-199、2005.51-191、2005.51-199

ミルク調製品：1901.90-219、2106.90-283、2106.90-284

ソルビトール調製品：2106.90-510

その他調製品：2106.90-590、2101.20-246、2106.90-252、2106.90-253、2106.90-281、2106.90-282、2106.10-219

表4 加糖調製品の品目別輸入数量（11月）

区分	輸入量 (トン)	前年同月比 (%)	前月比 (%)
ミルク調製品	13,511	▲ 9.5	▲ 18.2
ソルビトール調製品	11,195	▲ 4.9	▲ 3.3
ココア調製品	9,115	▲ 6.8	▲ 12.7
調製した豆（加糖あん）	5,383	▲ 4.2	16.0
コーヒー調製品	23	▲ 47.9	▲ 46.3
その他調製品	6,957	▲ 17.4	1.2
合計	46,183	▲ 8.7	▲ 7.8

資料：財務省「貿易統計」

### 3. 異性化糖の移出動向

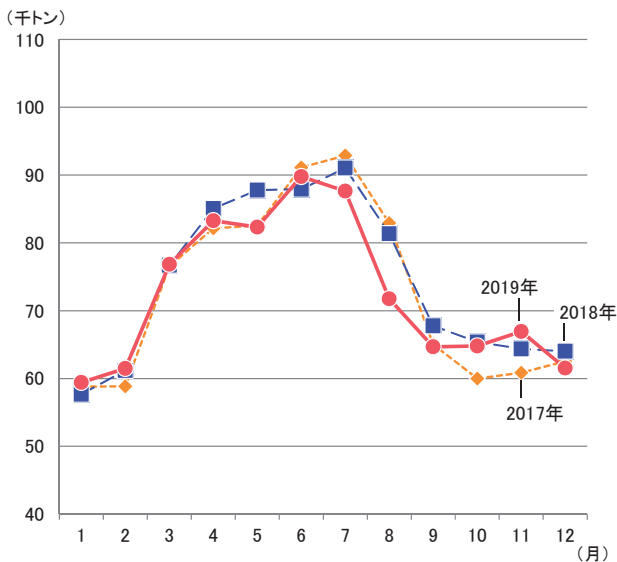
#### 12月の移出量は前年同月からやや減少

2019年12月の異性化糖の移出量は、6万1530トン（前年同月比3.9%減、前月比8.1%減）であった（図8）。

同月の規格別の移出量は、次の通りであった（図9）。

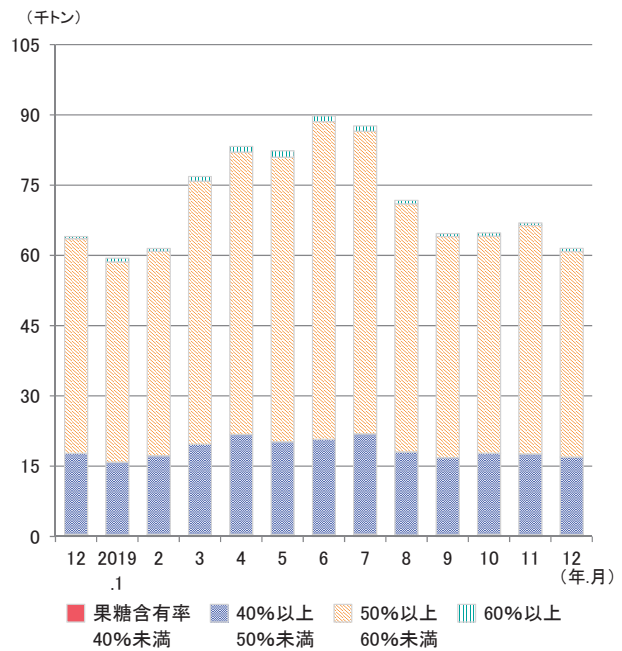
- 果糖含有率40%未満 407トン  
（前年同月比3.8%減、前月比13.3%増）
- 同40%以上50%未満 1万6544トン  
（同4.6%減、同4.2%減）
- 同50%以上60%未満 4万3887トン  
（同4.2%減、同10.0%減）
- 同60%以上 693トン  
（同50.3%増、同27.6%増）

図8 異性化糖の移出量の推移



資料：農畜産業振興機構調べ

図9 異性化糖の種類別移出量の推移



資料：農畜産業振興機構調べ

### 4. 価格動向

#### 【市場価格】

#### 砂糖、異性化糖ともに前月と同水準で推移

12月の糖種別・地域別の砂糖価格（日経相場）は次の通りであった。

上白糖（大袋）

東京	1キログラム当たり187～188円
大阪	同187～188円
名古屋	同191円
関門	同191円

上白糖（小袋）

東京	1キログラム当たり199～202円
大阪	同202円

本グラニュー糖（大袋）

東京	1キログラム当たり192～193円
大阪	同192～193円
名古屋	同196円

ビート・グラニュー糖（大袋）

東京 1キログラム当たり187～188円

大阪 同187～188円

名古屋 同189円

12月の異性化糖の価格（日経相場、大口需要家向け価格、東京、タンクローリーもの、JAS規格品、水分25%）は、次の通りであった。

果糖分42%もの

1キログラム当たり131～132円

果糖分55%もの

同137～138円

## 【小売価格】

### 12月の上白糖小袋の地域間の価格差は最大で23.6円

KSP-POSデータ（全国535店舗）によると、スーパーにおける12月の上白糖小袋（1キログラム）の平均小売価格は、189.8円（前年同月差1.2円安、前月差2.5円安）であった。最も高かったのは中国・四国で、最も安かった首都圏および中部との価格差は23.6円であった。

同月の地域別<sup>(注)</sup>の平均小売価格は次の通りであった（表5）。

(注) 地域の内訳は次の通りである。(以下同じ)。

関東など：茨城県、栃木県、群馬県、長野県、山梨県、静岡県

首都圏：東京都、千葉県、埼玉県、神奈川県

中部：新潟県、富山県、石川県、福井県、岐阜県、三重県、愛知県

関西：大阪府、兵庫県、京都府、滋賀県、和歌山県、奈良県

表5 上白糖の地域別平均小売価格（12月）

(単位：円/kg)

地域	平均価格	対前年同月価格差	対前月価格差
北海道	200.3	1.1	1.0
東北	197.6	▲ 2.5	▲ 1.4
関東など	181.7	▲ 1.6	▲ 0.1
首都圏	180.5	▲ 8.2	▲ 8.2
中部	180.5	▲ 1.4	▲ 1.3
関西	195.3	2.6	0.3
中国・四国	204.1	3.9	0.0
九州・沖縄	191.3	3.3	▲ 4.8
全平均	189.8	▲ 1.2	▲ 2.5

資料：農畜産業振興機構調べ（原典：KSP-POSデータ〈全国535店舗〉）

### 12月のグラニュー糖小袋の地域間の価格差は最大で73.8円

KSP-POSデータ（全国535店舗）によると、スーパーにおける12月のグラニュー糖小袋（1キログラム）の平均小売価格は、243.6円（前年同月差1.5円高、前月同）であった。最も高かったのは東北で、最も安かった北海道との価格差は73.8円であった。

同月の地域別の平均小売価格は次の通りであった（表6）。

表6 グラニュー糖の地域別平均小売価格（12月）

(単位：円/kg)

地域	平均価格	対前年同月価格差	対前月価格差
北海道	203.5	0.5	▲ 0.1
東北	277.3	2.2	0.8
関東など	247.3	▲ 1.5	▲ 1.3
首都圏	254.0	5.5	▲ 0.5
中部	250.3	1.8	0.0
関西	229.6	0.2	0.0
中国・四国	254.6	1.1	1.5
九州・沖縄	217.4	0.8	1.0
全平均	243.6	1.5	0.0

資料：農畜産業振興機構調べ（原典：KSP-POSデータ〈全国535店舗〉）

### 12月の三温糖小袋の地域間の価格差は最大で39.8円

KSP-POSデータ（全国535店舗）によると、

スーパーにおける12月の三温糖小袋（1キログラム）の平均小売価格は、231.7円（前年同月差2.5円安、前月差1.6円安）であった。最も高かったのは東北で、最も安かった九州・沖縄との価格差は39.8円であった。

同月の地域別の平均小売価格は次の通りであった（表7）。

表7 三温糖の地域別平均小売価格（12月）

(単位：円/kg)

地域	平均価格	対前年同月価格差	対前月価格差
北海道	222.7	▲ 11.9	▲ 5.8
東北	249.7	▲ 8.6	▲ 1.4
関東など	235.7	▲ 9.4	▲ 0.4
首都圏	226.1	▲ 2.1	▲ 3.2
中部	229.5	▲ 1.9	▲ 1.1
関西	229.6	▲ 0.2	▲ 2.1
中国・四国	249.4	▲ 0.6	▲ 0.5
九州・沖縄	209.9	▲ 3.4	▲ 1.1
全平均	231.7	▲ 2.5	▲ 1.6

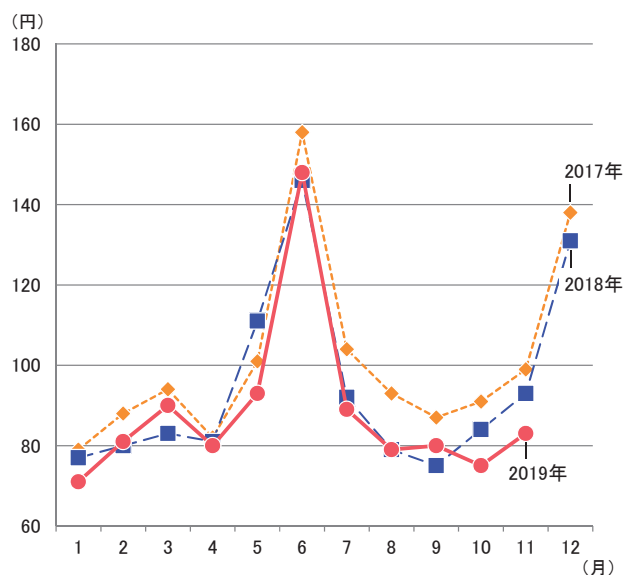
資料：農畜産業振興機構調べ（原典：KSP-POSデータ〈全国535店舗〉）

### 【購入金額および購入量】

#### 11月の砂糖の支出金額は前年同月と比べかなり大きく減少

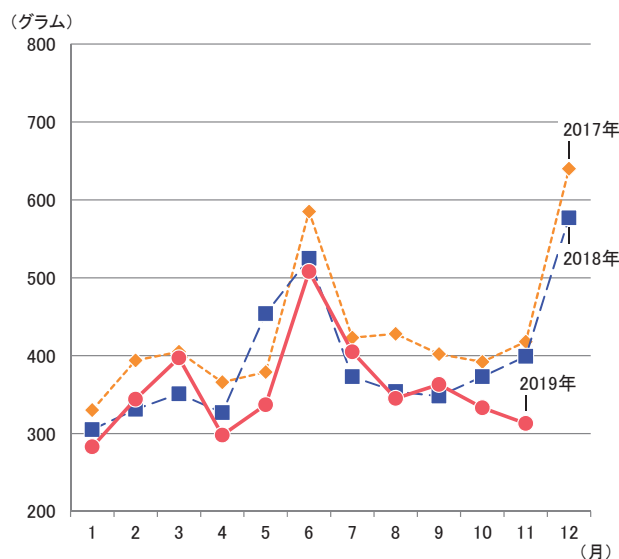
総務省「家計調査」によると、2019年11月における100世帯当たりの砂糖の購入頻度は34、1世帯（2人以上）当たりの支出金額は83円（前年同月比10.8%安、前月比10.7%高）であった（図10）。また、同月の1世帯当たりの砂糖の購入数量は、313グラム（同21.6%減、同6.0%減）であった（図11）。

図10 1世帯当たりの砂糖に係る支出額の推移



資料：総務省「家計調査」

図11 1世帯当たりの砂糖の購入数量の推移



資料：総務省「家計調査」